

2022年度 海洋問題演習 実施内容

学問分野横断的な思考の獲得および政策立案・問題解決能力を涵養する応用型の教育科目であり、海洋に関わるさまざまな政策課題への総合的なアプローチを具体的な課題に即して学ぶことが目的である。海洋に関わるトピックについて、各分野の研究者及び実務経験者から講師を得て、様々な角度からの議論を展開する。ケーススタディーという形を用いることで、専門の違いにとらわれず、問題解決に必要な知識を駆使して、受講者自らが課題解決の方策・政策を立案することを目指す。

S セメスターは、海洋における地球的問題群の解決に向けた取り組みの中から、「海洋ゴミ」「海洋再生可能エネルギー」「マリンバイオセキュリティ」「地域創成と海」「世界にコミットする問題発掘とその具体的対応行動」の5つのトピックを取り上げ、それぞれ学内外から第一人者を招聘して講義形式で進め、A セメスターはいくつかにテーマを絞って議論を中心に演習を進める。

1. 海洋ゴミ・プラスチック問題

第1回	4月18日	海洋ごみ 何が?どこから?どうする?
		鹿谷麻夕(しかたに自然案内 代表/琉球大学 非常勤講師)
第2回	4月25日	使用済みプラスチック・海ごみ問題の課題解決に向けて~グローバル・アライアンス・アプローチ
		穴田 武秀(廃棄プラスチックを無くす国際アライアンス Alliance to End Plastic Waste)
第3回	5月9日	バイオプラスチックを取り巻く最近の動向と今後の展望
		諏訪 賴正(一般社団法人 発明推進協会 主任研究員)

3. マリンバイオセキュリティ

第4回	5月16日	水生動物における感染症の特徴と侵入・蔓延の歴史と現状
		良永知義(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)

2. 海洋再生可能エネルギー

第5回	5月23日	2050年ネットゼロ社会に向けた洋上風力の役割
		工藤拓毅(一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 理事)
第6回	5月30日	洋上風力発電に係る法制度の整備
		諏訪 達郎(内閣府総合海洋政策推進事務局 海洋政策調整官)

3. マリンバイオセキュリティ

第7回	6月6日	コイヘルペスウィルス感染の侵入、蔓延、現状/ マボヤ被囊軟化症の国内侵入と疾病の現状
		佐野元彦(東京海洋大学 海洋生物資源学部門 教授) 熊谷明(海洋生物資源学部門宮城県水産総合技術センター 副主任研究員)
第8回	6月13日	OIE水産動物衛生戦略(OIE Aquatic Animal Health Strategy)について/ 水生動物における防疫のための国内制度
		釘田博文(世界獣疫期間(OIE)アジア太平洋事務所 代表) 良永知義(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)

4. 地域創成と海

第9回	6月20日	人口20人の限界集落で始めた漁業起点の地域おこし
		錢本 慧(合同会社フラットアワー 代表)
第10回	6月27日	小さな水産加工会社・原料産地が現代のグローバル市場で生き残るために
		鈴木 崇史(鹿児島大学 水産学部助教)

5. 世界にコミットする問題発掘とその具体的対応行動

第11回	7月4日	カーボンニュートラル実現に向けたブルーカーボンの役割と貢献
		桑江 朝比呂(海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 沿岸環境研究グループ長)
第12回	7月11日	ブルーカーボンに係る国際動向と日本の貢献可能性
		渡邊 敦(笹川平和財団 海洋政策研究所 海洋政策研究部 主任研究員)